

大きな功績 県民に希望

山新3P賞表彰式



山新3P賞表彰式で平和賞を受ける榊墨書院会長・植松弘祥さん(中央)と繁栄賞のシエルター社長・木村一義さん
 山形市・山形グランドホテル

山形新聞、山形放送が提唱し、地域の平和(ピース)、繁栄(アロスペリテイ)、進歩(プログレス)に尽力した個人、団体、企業を顕彰する「第61回山新3P賞」の表彰式が30日、山形市の

山形グランドホテルで行われ、平和賞の植松弘祥さん(東根市)、繁栄賞のシエルター(山形市)の功績をたたえた。今年の進歩賞は該当なしとなった。

植松さんは1960(昭和35)年に書道団体「書道研究 榊墨(こぼく)書院」を東根市に設立した。日展で入選22回、特選2回に輝き、2000年から審査員を計3度務め、01年から会員。参与も担った。多くの

要職を歴任し、本県の文化振興に貢献してきた。現在も日展山形会長として活躍している。

木造建築メーカーのシエルターは1974(昭和49)年に創業した。接合金工工法「KES構法」を日本で最初に開発し、木質耐火部材「COOL WOOD(クールウッド)」は世界で初めて3時間耐火の国土交通大臣認定を取得した。注文住宅のほか、大規模建築を手掛け、木造建築の新たな可能性を広げている。

表彰式では主催者を代表し、寒河江浩二山形新聞社長(山形新聞グループ経営会議議長)が「今後も県民の期待と信頼に応え、一層、県勢発展に貢献していただきたい」と激励。寒河江社長は植松さん、シエルター社長の木村一義さんに表彰状と副賞の賞金100万円を、本間和夫山形放送社長が東北芸術工科大の峯田義郎名誉教授(山形市出身)が制作したアロンス像を贈った。

来賓の吉村美栄子知事は「受賞者のさらなる飛躍が県民に希望を与え、県を活性化し、県の魅力をさらに高める原動力になる」とあいさつし、土田正剛東根市

長と齋藤順治山形市副市長も祝辞を述べた。受賞者代表の木村さんは謝辞で「受賞を励みに、世のため人のために役に立てるようさらに社業に精進していく」と誓った。

表彰式に続いて特別講演会が開かれた。植松さんが会場で「飛翔」の文字を揮毫(きごう)した後、「日展書家 植松弘祥」の著者で元東根市教育長の小関正男さんが「弘祥先生に学んだ心の置き場所『飛翔の心』」と題して話をした。木村さんは「木造都市の実現」をテーマに、自社の取り組みと将来の構想を紹介した。